

# 口筆で描く やさしい世界

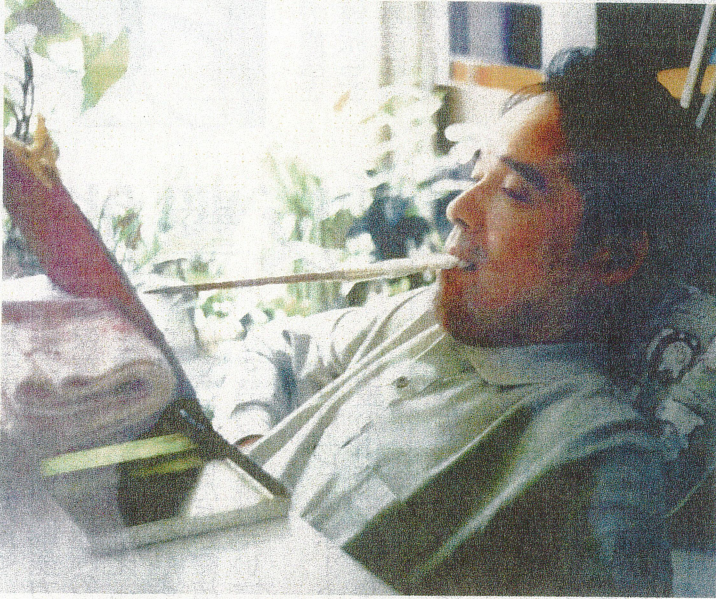
## 綾部出身画家 曾根豊さん、遺作30点

筆を口にくわえて絵を描いた綾部市出身の口筆画家、曾根豊さん（2001年死去）の作品展が3日、同市西町2のギャラリー「カフェ」で始まった。高校生の時、負傷して首から下の体を動かすことができなくなったが、最期まで描き続けた。約30点を展示。豊かな色彩と緻密でやわらかな画風から、曾根さんの強い精神力とやさしい人柄が伝わってくる。14日まで。

【庭田学】

曾根さんは綾部高校2年生で17歳だった1965年、椎脱臼骨折、脊髄損傷で、11月、体操部新人戦の鉄棒競技で頭から落下した。頸

励ましてくれる友人たち



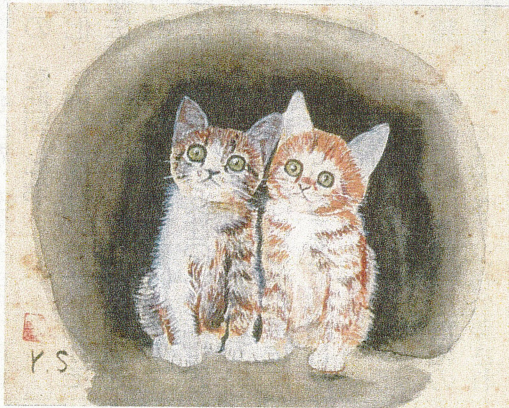
筆をくわえて絵を描く生前の曾根豊さん。1981年ごろ撮影  
 〓曾根紀行さん提供（2024年5月1日登録）

### 14日まで展示 福祉施設に寄贈へ

に年賀状の返事を出すため、曾根さんは69年、初めて筆をくわえ「あけましておめでとう」の文字を書いてきた。絵を描き始めるきっかけだった。82年に京都市内で初の個展を開くなど、52



口筆画家、曾根豊さんの作品「蘭」（1981年）  
 〓いずれも綾部市内で



口筆画家、曾根豊さんの作品「猫」（1980年）

織細なタッチで花や動物、人物、風景などを描いた。水彩が中心で、油彩や鉛筆画もある。作品は今後、綾部市内の複数の福祉施設に寄贈される予定で、曾根さんの作品を集めた最後の展示会になる可能性があるという。

作品展を企画した曾根さんのおい、紀行さん（58）は「筆をくわえて絵を描く姿を見て、私たちも頑張っ生きていかなければならないと思った。叔父の絵は多くの人を勇気づけてくれる」と話している。午前10時〜午後5時（最終日は午後3時まで）。水・木曜定休。